



さんだ倶楽部

"TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT" No.29-3 Septenbar 2021

会長主題:『意識を喚起し、進んで行動を』 「Create Awareness Take Action」

国際主題:『世界とともにワイズメン』

“Y's Men with the World”

『愛と尊厳で世界を癒そう』

アジア主題『100年を越えて変革しよう』

“Make a difference beyond the 100th”

西日本区主題:『羽ばたこう』

六甲部主題: 寄り添い、分かち合い～『三方よしで、みんな笑顔』

Snuggle up and share with you

～”Smile on each side”～

会 長:	安行 英文
副 会 長:	竹内 一夫
書 記:	松本 美耶子
会 計:	安行 暁子
会計監査:	竹内 路子
担当主事:	齊藤 靖
ブリテン:	松本 文男

9月の例会

◆9月例会 9月8日(水) 18:30～

Zoom

ドライバー 会長

協 議

- ① 六甲部部報について
- ② オータムコンサートについて
- ③ 今後の行事について
- ④ その他

報 告

会長 YMCA

誕生日のお祝い

今後の予定

◆10月第1例会 10月13日(水)

安行邸 19:00～

◆10月第2例会 10月中頃

丹波篠山市 黒枝豆収穫

8月のデータ(在籍者 8名)	
出席 メン7名	出席率 87.5%
ニコニコファンド	累計 3000円

今月の聖句

「わたしがあなたがたを愛したように、
あなたがたも互いに愛し合いなさい。」
(ヨハネによる福音書 13章 34節)

♥ 誕生日おめでとうございます。♥

9月20日 松本 美耶子メン

9月23日 竹内 路子メン

2021年8月例会報告

日 時 8月24日(火)

19:00~21:00 Zoom

出席者 安行英文・暁子、竹内一夫・路子
松本文男・美耶子 齊藤 靖

ドライバー 竹内一夫

〈協議事項〉

- ① オータムコンサートについて
 - ・チラシ案の検討・決定
 - ・演奏者にも確認の上、清水メンに、プリントパックに200枚印刷注文依頼。
 - ・フラワー市民センター受付に「ホール使用の詳細情報」を提出必要
→8/27に提出済
- ② 六甲部部報について
 - ・書記作成のたたき台に基づき検討
 - ・以前の話し合い通り簡潔なものにする
 - ・2020-2021 安行部長 初めの挨拶や報告文書作成
 - ・4つの部長卓話を掲載するかどうかは、記録としては残したいが、部報に付けるかどうかは未結論。
 - ・ワイズメンズクラブ六甲部ホームページの「資料」にアップして残すという方法も検討。
 - ※この話し合いから、ホームページについて、管理ができていないことが浮き彫りになり、意見が色々出され今後の課題となった。

〈報告事項〉

YMCA

2021年8月21日付配信の井上真二総主事の「リーダー委嘱式・研修会への協力をお願い」という文書について、齊藤担当主事より補足説明(資料プリント)

- ・2021年3月19(金)開催
ワイズメンズクラブ六甲部各&総主事懇談会議事録
- ・2021年度ワイズ六甲部と神戸YMCAの協働について

会長

・YMCAからの依頼について

- ① 委嘱式・研修会
→委嘱式とリーダートレーニングキャンプ
- ② リーダー研修会参加費補助
→全リ研参加費補助+サマーキャンプ実施支援(PCR検査等)
但し、今までの支援金と変わらず。
 - ① は 10,000円
 - ② は 20,000円
- ③ スピーチコンテス 5,000円
- ④ タイ研修 100,000円(未定)

・デジタル推進委員会

9月6日(月)午後6時30分から zoom

今回は機器の操作など、基本的な操作について。

・記念植樹検討委員会

8月30日(月)午後7時から zoom

記念植樹の概要と設置場所、植樹の種類などを検討。

二案の提示

① 部全体として取り組む

② 各クラブとして取り組む

いずれにしても、各クラブ5万円をいど、できれば総額30万円くらいで予算組。常緑樹か落葉樹か、設置場所も検討中(公共施設あるいはYMCA)

・9/12 予定のローンボールは中止。

・中部部会中止のお知らせあり。

※ 次回例会 9月8日(水) 19:00 Zoom

今月の聖句

「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」

(ヨハネによる福音書 13章 34節)

今月の聖句は、イエスが弟子たちに向かって教えた言葉ですが、これは「新しい掟をあなたたちに与える」と前置きして語られた言葉です。つまり、人が互いに愛し合うということが掟・ルールだということです。この考え自体は、当時の社会の中にすでにあったものでした。なぜそれが「新しい掟」とここで言われているのかというと、それはイエスがここで、「わたしがあなたがたを愛したように」と言っているからです。この言葉が指しているのは、このあとに起こる十字架の出来事であり、それが意味するのは、自分にとって好きか嫌いか、重要かそうでないか、敵か味方かに関わらず、自分以外のすべての人を愛しなさいということであり、それが従来とは違う新しさだったのです。とはいえ、これはそう簡単にできることではありません。そもそも「愛する」というのは自分の中に自然と湧き上がってくる感情であり、掟やルールとして強制されてできるようなことではないし、仮にできたとしてもそれでは意味がないでしょう。つまり、私たち人間というものは根本的な部分において、相手に関わらず互いに愛し合うなどということはできない存在でしかないのです。それはイエスの弟子たちもそうでしたし、イエスを憎み、殺そうとした人々もそうでした。しかしイエスは、それを知ったうえでなおこの教えを語ったのです。それは、イエスの教えたこの掟の新しさとは、何よりもまず、すべての前提にある神の愛を信じること、受け止めること、そこから自分はどう生きるかということを考え、探し、求めていくということだったからです。

社会や組織の中に生きる限り私たちは、そこに定められたルールや掟を守らなければなりません。しかし、それらにがんじがらめに縛られて生きることはとても窮屈なことです。縛られていないとしても、故意にあるいは無意識に破ってしまうこともあるでしょう。そんな人間のことを、それでも神は無条件に愛してくださったのだ、あなたがたはそうやって神に赦され愛された者同士なのだ、そのことを常に忘れずにいれば、互いに愛し合うという掟に従った生き方ができるだろう、そのように聖書は私たちに語るのです。

摂津三田教会 牧師 西脇 正之